



～今年度の中学部研究～

【研究テーマ】

「人とかかわりの中で、自ら考え、表現し、思いをつなげる生活単元学習」

【研究仮説】

人とかかわりの中で、生徒たちが自ら考え、表現し、思いをつなげる姿を具体的に思い描きながら教師集団全体で授業づくりを行っていく。そうすることで、「主体的、対話的で深い学び」を引き出すことができ、生活の中で生きる力(付けたい資質・能力)を育むことができるのではないかな。

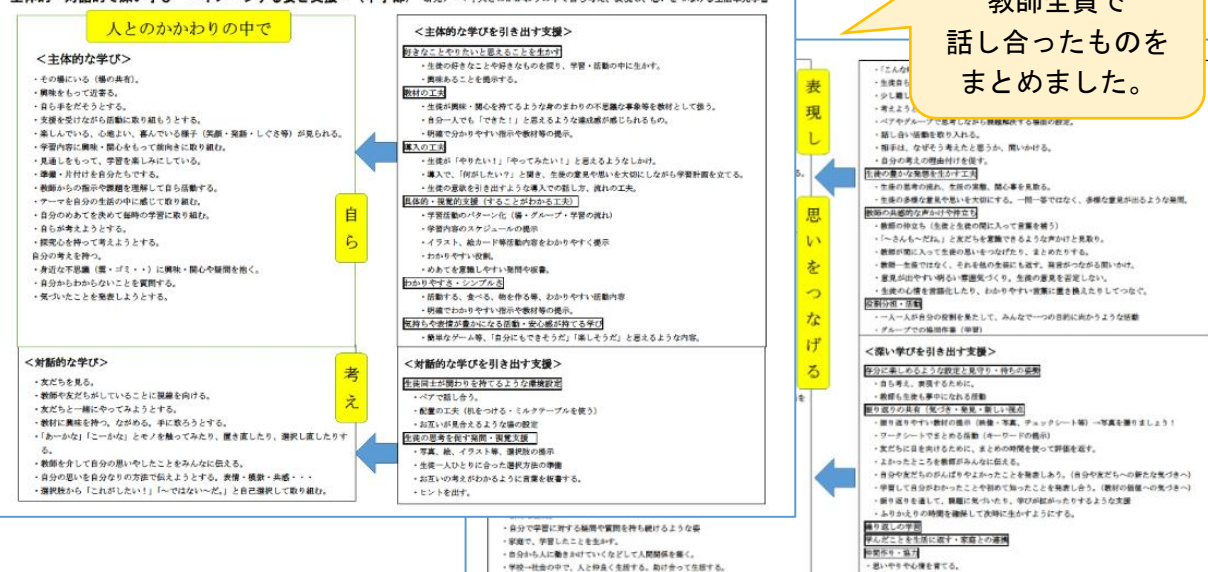
今年度、中学部では上記のような研究テーマと仮説のもと、4つのグループに分かれて、合計8回の授業研究を行いました。夏休みには、各グループで生徒の実態について話し合い、「授業づくりのデザインシート」を作成しました。また、“重複障がいのある生徒の「主体的、対話的で深い学び」のイメージを持ちにくい”ということが課題としてあがっていたことから、各グループの生徒の「主体的、対話的で深い学び」とはどのような学びなのか、具体的にイメージする姿とその支援について、KJ法を活用してグループごとに話し合いました。そして、「主体的、対話的で深い学び」は生徒の実態によって多様であるということをも学部で教師全員で共通理解したうえで、生活単元学習の授業づくりに取り組みました。

中学部
公開授業
8回

- | | |
|------|--------------------------------|
| 1年重複 | 「冬だよ 全員集合！冬を楽しもう！」12/3・12/12 |
| 2年 | 「みんなでほっこり 冬をエンジョイ！」11/28・12/14 |
| 3年単一 | 「入試に向けてホップ！ステップ！」11/19・12/3 |
| 3年重複 | 「おはなし会へようこそ」11/27・12/19 |

主体的・対話的で深い学び ～イメージする姿と支援～（中学部）

主体的・対話的で深い学び ～イメージする姿と支援～（中学部） 研究テーマ：人とかかわりの中で自ら考え、表現し、思いをつなげる生活単元学習



* 次ページに、全体研究会での2年生の公開授業について簡単に紹介したいと思います。



生活単元学習「みんなでほっこり 冬をエンジョイ！」(中学部2年生)



～なべの材料や味をきめよう！～

中学部2年生は7名の生徒がいますが、発達年齢に幅があり、言語理解や表出の実態の差も大きい集団です。季節の移り変わりやその特徴などについては、認識できていない生徒がほとんどです。生徒たちが冬の自然と触れ合ったり、冬ならではの食べ物や遊びなどについて実際に体験したりしながら学習することで、冬の楽しさを体感してほしいと願いながら学習を進めました。

＜本時のねらい＞

- ・鍋に入りたい材料や食べたい味を自分なりの方法で伝える。(関わりの基礎となる力)
- ・鍋の材料や味をみんなで話し合って決める。(集団活動への参加、協力・協調・協働)

「主体的、対話的で深い学び」を引き出すために・・・

- ・鍋に入れる材料や味を、みんなで話し合っ**て試行錯誤する、自己選択する**など個や集団で**思考する場面**を大切にする。
- ・**個々の気付きや意見、思いを表現し、共有する時間**を大切にする。生徒の思いを代弁したり、共感したりして教師が仲立ちを行い、生徒の思いをつなげていく。
- ・**絵や写真などを提示する(パネルシアターの活用)、具体的な活動(試食)**を取り入れる。

＜材料決め＞ 前日に家の人に、鍋に入れる材料や味についてインタビューしてくるようにし、生徒たちは、それをもとに発表しました。言葉で発表できにくい生徒は、教師が事前にアンケートをとり、絵を選んで発表しました。発表した材料は、パネルシアターに絵を貼って、視覚的に提示！野菜の名前も確認していきました。



白菜・大根・白ネギ・えのき茸・とり肉・豚肉・とうふ・ラーメン肉はどちらにするか意見が分かれ、両方を入れることに・・・

＜味決め＞「寄せ鍋」「塩ちゃんこ味」「キムチ味」の3種類の味を試食して、みんなで食べたい味をそれぞれが発表！ところが、なんと「寄せ鍋」と「キムチ味」が1名ずつ、残りの5名は「塩ちゃんこ味」という結果に！そこで、「どうする？」と生徒たちに投げかけると「おいしいから寄せ鍋がいい！」とNさん。最後まで「キムチ味」がいいと主張するMさん！結局、結論が出ず、次時に再度話し合い「塩ちゃんこ味」と「キムチ味」の2種類の鍋を作るようになりました。



＜Mさんのエピソード＞

日頃は、みんなの前でそんなに自分の思いを主張しないMさん。この授業でMさんは、初めて「キムチ味」の鍋を試食し、「おいしい！」と最後まで自分の意見を譲ることはありませんでした。「からい」と言っていたみんなも、後日、Mさんの思いを受け入れて「キムチ味」の鍋も作ることに決定！鍋料理当日、Mさんは、「キムチ味」の鍋をお腹いっぱい食べ、満足した様子でした。そのことをおうちの方に伝えると「キムチ味の鍋をMが食べたのは、生まれて初めてです！我が家の鍋のレパートリーに“キムチ味”の鍋が新しく加わりました。家でもさっそく作って家族で食べました。」と教えていただきました。Mさんが、自分の思いを受け入れてもらったこの経験は、仲間への信頼感や安心感へとつながり、他者の思いも受け入れることのできる自我を育む素地となると感じました。また、「キムチ味」という新しい味の発見は、今後のMさんの生活をより豊かなものにしてくれることでしょう。

(文責 児島陽子)

